

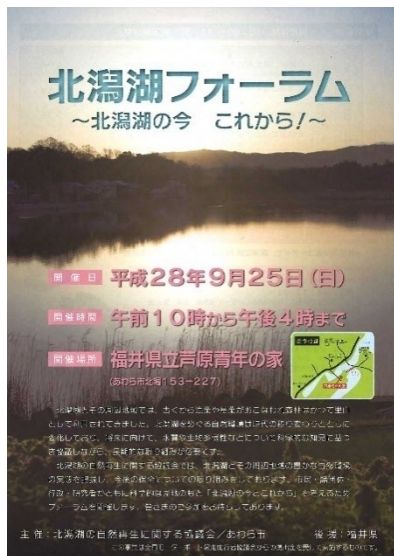
北 潟 湖

発行：北潟湖の自然再生に関する協議会

事務局：あわら市市民福祉部生活環境課
TEL:0776-73-8017
E: seikatsu@city.awara.lg

ニュースの内容

- 1 北潟湖フォーラム
- 2 外来種駆除事業



北潟湖フォーラム
～北潟湖の今 これから～

開催日：平成28年9月25日(日)
開催時間：午前10時から午後4時まで
開催場所：福井県立芦原青年の家
(あわら市北潟1-53-227)

主催：北潟湖の自然再生に関する協議会/あわら市
共催：あわら市市民福祉部生活環境課

午前の部 自然体験 10:00～11:30 荒天時は中止

コース	内 容	参加人数
1コース	心地よい風に吹かれながらカヌーを体験 (湖岸を漂遊しながら自然を満喫)	30名 (小学生4年生以上)
2コース	北潟湖と日本海 船上からみる風景 (遊覧船でアイリス・スプリング下流を遊覧しながら大聖寺川付近までを遊覧)	30名
3コース	北潟湖の宝 / 魚とミサゴ ウォッチング	30名
4コース	北潟湖周辺のサイクリングやボートに乗ってみよう! (サイクリング/ボートの準備は各自で体験)	50名

＜参加費＞ 1人 500円(昼食代として) ※午後の部のみの参加の方は無料です。
 ＜申込期限＞ 平成28年9月16日(金) 午後5時まで
 ＜申込方法＞ あわら市市民福祉部生活環境課まで下記の申込用紙を出していただくか、電話、FAX、Eメール
 でお申し込みください。集合時間等の詳細は申し込み後にお知らせします。
 (TEL) 0776-73-8017 (FAX) 0776-73-1350
 (e-mail) seikatsu@city.awara.lg.jp
 ※参加を希望される方は、開催直前まで各自自己責任において参加申し込みをお願いします。

昼食時間 11:30～13:00

～特産品試食コーナーで、富津金時 焼き芋、なし、しじみ汁を試食～

午後の部 基調講演・研究報告 13:15～

＜基調講演＞ 13:30～
 講 師：認定NPO法人 共存の森ネットワーク 理事長 澁澤 壽一氏
 演 題：「自然と共にある暮らし」

＜研究報告＞ 14:35～15:20
 ●福井工業高等専門学校 環境都市工学系 准教授 奥村 充司 氏
 「北潟湖 北潟湖の水質の特性について」
 ●福井県立大学 海洋生物資源学科 教授 齋藤 修 氏
 「北潟湖の近年の魚種組成について」
 ＜コーディネーター＞ 京大大学総合文化研究科 准教授 吉田又人 氏

＜各種コーナー＞
 ・ポスターセッション / 各展示コーナーで聞いてみよう! (午前11:30～13:00、午後15:20～16:00)
 ・北潟湖周辺の今昔写真と風景写真の展示コーナー
 ・北潟湖に生息する生き物の展示コーナー

＜来場者にエコ商品をプレゼント!＞

美味しさ大人気!

特産品試食コーナー



北潟湖今昔写真・DVD視聴コーナー



北潟湖の生き物
展示コーナー

基調講演・研究報告

- 前川副市長：北潟湖は、あわら市の宝の一つと考えている。支援していきたい。
- 青海会長：人と自然の付き合い方を追求していく。北潟湖をどうしていくか。
- 基調講演「自然と共にある暮らし」 澁澤 壽一氏(認定NPO法人 共存の森NW理事長)

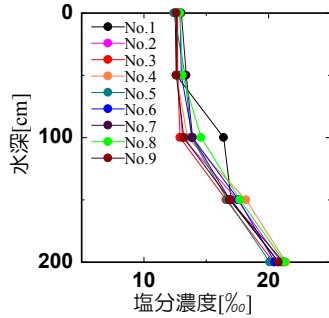


＜講演のキーワード＞ メモより
 ・森をつくるのは、6～7世代の仕事
 ・この50年の変化、不安の時代到来
 ・自然の成長量を超え、元本まで食っている。
 ・人の命と環境のつながりがモラルの基本
 ・結は「ありがたさ」と「煩わしさ」の狭間
 ・「共感」は、食物を分け合うことで生まれる。
 ・価値観を共有しないと社会再生はできないし、
 そうしないと自然再生もできない。

報告1:「北潟湖 汽水湖の水質の特性について」

奥村 充司 氏(福井高専准教授)

- 湖の奥部まで「塩水クサビ」形成(下図)。塩水は密度が大きく、上部の淡水が出て行き、下部に塩水が入って残留する状況。
- 日本海の潮位と大聖寺川の水量、開田橋の開閉のタイミングにより下層に塩水が流入。
- 今年は降水が少なく、湖の奥部では下層の溶存酸素濃度が小さく、魚類にとっては致命的。また、上層もプランクトンの異常増殖で昼間は溶存酸素、pHとも高い。



報告2:「北潟湖の近年の魚種組成について」

富永 修 氏(福井県立大教授)

- ブルーギルは、北潟湖では1965年に初確認され 2004~2010年は優占種であった。2015年は湖内では12月に上流部で1個体採集されたのみ
- 2010年は、ブルーギル、フナ、コイなど淡水魚とハゼが多かった。
- 2015年9月調査では、淡水魚が激減
- <北潟湖の塩分環境の特徴> 3パターンある。
- 2004年:春から夏は低く、10~12月は高い
- 2010年:周年低い 2014年:春から夏も非常に高い (ブルーギルは6~8月に産卵)

<ブルーギルと塩分の関係>

- 2%~2.4%:死 1.2%超で乱れ 0.6%超でストレスを感じる
- 塩分濃度は「開田橋水門の開閉管理で決まる。」

■コーディネーター: 吉田 丈人 氏(東京大学准教授)

<会場との意見交換>

- Q1:北潟湖にどのようなビジョンを持っているのか
- A1:50~100年先どうする。甘受しないといけないこともあり、考えていかないといけない。
- A2:合意形成は、「子供たちのために」が必要。次の世代に何を残すかが重要。
- C:「昔の話」から「これから」が大切。



<参加状況> 参加ありがとうございました。

- 自然体験 計62名
 - ①コース9名 ②コース25名 ③コース18名 ④コース10名
- フォーラム延べ参加者 219名

< ポスターセッション >

活発に参加者と意見交換



ポスターセッション参加団体	認定NPO法人 グリーンウエル
日本野鳥の会福井県	北潟歴史探訪の会
北潟湖生きもの応援隊	北潟湖ハクチョウを見守る会
北潟漁業協同組合	あわら市エコ市民会議
あわらの自然を愛する会	福井県里山里海湖研究所
観音川を護る会	福井県自然保護センター

<北潟湖周辺のため池における外来種対策>

福井県自然保護センター (センター資料より抜粋)

- ◆**県域絶滅危惧Ⅰ類のオグマサナエの絶滅を防ぐために**、橋屋地区内のため池において、ウシガエルを継続的に駆除し、低密度管理をする。

- ◆**特定外来生物ウシガエル駆除作業**

瓜谷池(橋屋)にアナゴカゴ(18個)を設置
1回/週の頻度で回収作業を実施

- ◆**捕獲状況 (平成28年8月~) (単位:匹)**

月/日	ウシガエル(成体)	ウシガエル(オタマ)	アメリカザリガニ
8/4	7	0	0
8/6	7	45	3
8/11	9	27	1
計	23	72	4



※ 1950年:ウシガエル13万匹放流:1回のみ(芦原町史)
参考:アメリカザリガニはウシガエル養殖の餌用に輸入したもの